知る、つながる、好きになる　ながおか市民活動情報誌

らコット

Racotte vol.57

2017 9 FREE

発行●ながおか市民協働センター

伝統を橋渡しする地域の商店主 大島一洋さん

子育て世代を多世代でつなぐコーディネーター 馬場裕子さん

interviewe インタビュー

●団体PickUp!

「地域の文化を唄い継いでいく」
山古志仕事唄伝承の会

「経験で支える社会復帰への道」
特定非営利活動法人 新潟マック

「流派を超えて茶道を盛り上げる」
長岡市茶道文化協会

「『IT×地方』でゆるく豊かなコミュニティづくり」
ギークハウス越路

●長岡企業のソーシャルアクション!

「住民と一体となった宝の磨き上げ」
株式会社田中組

●みんなの声

投稿テーマ「○○に助けられました！ 人生の山登り」

everyone's voice みんなの声

投稿テーマ ○○に助けられました！ 人生の山登り

私は人生の山場にスクールカウンセラーの先生に寄り添ってもらいました。引っ張るというより寄り添うという感じで助かったのを思い出します。それがきっかけでカウンセリングの勉強をしています。いつか、私も寄り添う側になれたらいいなと思います。

投稿者 紫苑さん

私が一番勉強を頑張ったのは専門学生の頃。検定前は夜遅くまで学校に残って勉強、帰りの電車でも教科書開いて、家で寝てる時まで勉強の夢をみて寝言で簿記の仕訳を言ってたこともありました…。あんなに頑張れたのは同じ目標を目指して一緒に頑張ったクラスのみんながいたからです。卒業して10年以上経ちますがずっと大切な友達です！

投稿者 和島地域むすび隊 桑原佑美さん

私の『人生の山』はやはり出産です。いつかは頂上に到着できると思いつつも、長くて険しい山でした。ただ、本当に多くの助産師さんが背中をさすり続けてくれ、励ましてくれ、9年経つ今でも顔を忘れないほどです。感謝の気持ちは今でも忘れません。

投稿者 りささん

以前の職場は労働時間が長く、常に体力・精神力との闘いでした。営業だったので、数字が出ない時は落ちこむこともしばしば。山登りに例えるなら、月始めに登り始め、月末に山頂に到着。そして翌月には新しい山へという、永遠のトレイルラン。そんな日々の支えだったのは、会社の先輩でした。二人共一人暮らしで、仕事の時間以外は自由な時間でした。深夜に缶チューハイを持ち寄って飲むのですが、だいたい疲れて気が付いたら寝てしまい、翌日あわただしく出社する日々が、唯一のストレス発散で心の支えでした。県外の職場でしたので退職以来なかなか会うことはできないですが、来月には私の結婚式でお会いできるのをとても楽しみにしています。

投稿者 品川賢太さん

寄せられた投稿はつながるラジオで読まれるかも！

投稿募集中　［募集期間］8/21〜9/20

9月の投稿テーマ
人生の大先輩へ、伝えそびれた「ありがとう」

投稿方法
- 投稿フォームを使う　QRコードから投稿フォームへアクセスしてください。
- 協働センター窓口で投稿する　協働センター窓口に設置されている「みんなの声」コーナーからも投稿できます。

つながるラジオ
週替わりで市民活動団体を紹介するFMながおかのラジオ番組。
■放送局：FMながおか（80.7MHz）
■放送日：毎週月曜日17時頃〜（10分間）※第5月曜日を除く

column 市民活動・虎の巻

地域外から若者（学生）を受け入れるポイントは…“教える×学ぶ”関係性と“1対多”の場づくり

公益社団法人 中越防災安全推進機構 ムラビト・デザインセンター
チーフコーディネーター 金子知也さん

都会からやってきた20代・30代の若者が地域の仕事や暮らしを学ぶインターンシップを行う「イナカレッジ」という活動で大切にしていることは、①「地域の皆さんから農村に伝わる仕事や暮らしを教えていただき、それを都会から来た若者が学ぶ“教える×学ぶ”の関係性づくり」と、②「一人の若者に対して、たくさんの人たちが関わる“1対大勢”の受入体制づくり」の2つです。若者には『一緒に地域のために活動したい』という気持ちがあります。地域の皆さんと外からやってきた若い人たちが“一緒に汗を流しながら活動する場”をつくり、地域に共感してくれる若者を育て、そして何よりも活動をされている皆さん自身が楽しく盛り上がっている姿を見せることが大切です。だって、楽しそうじゃないところに人は集まりませんよね？

※この記事はWEBサイト「コライト」からの抜粋です。

information センターからのお知らせ

秋の講座 3本立て！

その1　10月13日（金）13:30〜16:30
人生100年時代の「キャリア×生き方」セミナー
会社や家庭などで培ってきたことを活かして、輝く「人生100年時代」の生き方を組み立てましょう。
・講師／さいたまキャリア教育センター　古川晶子氏
・場所／アオーレ長岡西棟3F　市民交流ホールB、C
・定員／40名（先着順）　・参加費／無料

その2　11月2日（木）14:00〜16:00
ファンドレイジング ながおか ～非営利団体の資金調達～
会費、寄付金、事業収入などファンドレイジングの基礎知識を学びます。
・講師／ファンドレイジング・ラボ　徳永洋子氏
・場所／アオーレ長岡西棟3F　市民交流ホールB、C
・定員／40名（先着順）　・参加費／無料

その3　11月16日（木）15:00〜17:45
長岡の未来をつくろう「グリーンズ」に学ぶソーシャルデザインのいろは
「ソーシャルデザイン」をキーワードに全国の地域活動を紹介。アイディアやモチベーションアップ間違いなし！
・講師／NPO法人グリーンズ　鈴木菜央氏
・場所／アオーレ長岡西棟3F　市民交流ホールB、C
・定員／100名（先着順）　・参加費／無料

■ 申込・問合せ／ながおか市民協働センター　Tel.0258-39-2020

毎週月曜日17時頃から放送中！ つながるラジオ
FMながおか 80.7MHz　ながおかの市民活動紹介番組　放送時間 10分程度 第5月曜日を除く

コライト、見ないと！　コライト　検索

ながおか市民協働センターは、地域をより良くする市民の活動が集まる拠点です。協働センターのwebサイト「コライト」では、市民が行うイベントや助成金などの情報を幅広く掲載しています。らこってのバックナンバーも閲覧できます。ぜひご覧ください。

らコット 2017.9.1〈vol.57〉 FREE 【発行】ながおか市民協働センター

〒940-0062 長岡市大手通1丁目4番地10　シティホールプラザ アオーレ長岡 西棟3F
Tel.0258-39-2020　Fax.0258-39-2900　Mail. kyodo-c@ao-re.jp　http://nkyod.org

配布場所　長岡市役所及び各支所、サービスセンターの他、市内図書館、コミセン、子育ての駅等、公共施設に設置しています。

インタビュー interviewe

地域をよくするウワサのあの人にインタビュー！

活動に込める気持ち、これまでのいきさつ、組織での役割……。根掘り葉掘りお聞きしました。

大島一洋さん〈45歳／自営業〉全日本丸太早切選手権大会実行委員会

“継続”が育む地域の魅力
先代から引継いだ伝統を楽しみながら未来へ

今年で26回を数える「全日本丸太早切選手権大会」。今では三島地域を代表するイベントとして定着した本大会の始まりは平成3年。旧三島町の地域活性化と知名度向上を図るため、異業種交流グループなどが声を上げ実行委員会を設立しました。現在は設立メンバーから引継いだ若手が中心となって運営しています。三島地域で家業を継ぐ大島一洋さんは周りの同世代とともに先代から引継いだ大会の運営を支える一員です。

家業を継いで以来、三島町商工会青年部や消防団など地縁関係の役回りを経験。大会の実行委員会にと声を掛けられると、「昔からの地域内のつながりがある。これもいつかは自分にも回ってくるもの」と地域で暮らし、商う者として自然に引き受けました。「祭りごとは外から見ているより中に入った方が面白い。運営側ならではの刺激的な経験もできる」と大島さん。地域プロモーションの一環で市内外へ出張実演することもあり多忙な実行委員ですが、まれに芸能人に会うこともできるなど、自分なりの楽しさを感じています。

大島さんの昨今の悩みは、実行委員会のこれからのこと。「20回以上も大会を続けてきたのはたやすいことじゃない。地域のために大会を絶やさないよう、次の世代をどうやって増やし育てていくかが課題です」。消防団を約二十年続けるなど人一倍“粘り”の強い大島さん。「一度始めたことは最後までやり抜きたい。続けることで本当の面白さが見えてくるし、何かしらいいこともある」とその秘訣を話します。“継続”から楽しさと可能性を見出す大島さんのような存在が、地域の伝統を未来へつなげるためには不可欠なのかもしれません。

●上：今年の大会も無事に終えました。最近では参加者がすぐに定員に達するほどの人気ぶりです。●左下：大島さんが活躍する長岡市消防団三島方面隊。大会も消防団も地域の連帯を支える大切な取組みです。●右下：家業の商店ではお米や地元特産品を取扱い。昭和初期から三島・脇野町で商い続けています。

profile

- 1972年　三島町（現長岡市）に昭和初期から続く商店の三代目として生まれる。
- 1990年　高校卒業後は「一度は地元の外も見たかった」と新潟市で進学・就職。
- 1995年　Uターンし、家業を継ぐ。長男としていつか自分が継ぐのだろうと考えていました。
- 2011年　青年部の部長を務め終えたことを契機に、実行委員会へ加わる。今では決勝に使用する丸太のチェックも担っています。

活動の根っこ

継続は力なり

大島一洋

馬場裕子さん〈48歳／NPO職員〉特定非営利活動法人 多世代交流館になニーナ、おうちごはん日和（ひより）、つむぐ庭（わ）

多世代が集えば楽しさもやりがいも広がる！
立場が違うからこそ支えあえる長岡を目指して

特定非営利活動法人多世代交流館になニーナは、多世代交流を通して、お互いが支え合いはぐくみあおうと活動する団体。馬場裕子さんは、になニーナの副代表で子育ての駅ぐんぐんの施設長。代表を支え、スタッフをまとめる傍ら、個人としても市民活動に取り組んでいます。

幼稚園の頃から年下の子の面倒を見ることが好きだったという馬場さん。保育士になる夢を叶えて、勤めた職場で、になニーナ代表の佐竹直子さんと出会います。当時先輩だった佐竹さんの誘いで職場の外で一緒に親子向けコンサートや、わらべ歌サークルを開催するなど、多くの市民活動を経験。人や社会とつながることの楽しさを知りました。

そんな馬場さんですが、結婚・出産を機に仕事と活動から離れました。当時は社会とのつながりが減り、家庭に問題を抱えていたこともあり辛い時期だったそう。「市民活動は楽しさだけでなく、社会の中で自分の役割を持てる大切な機会だったことに気づきました」。その後、自身の子育てと並行して子育て支援団体の活動に参加します。

馬場さんは、様々な活動を通して多世代が集うことの魅力と必要性を感じたそう。「子育て世代だけで集まっていると、ついつい成長や能力を周りと比べることも。でも世代の違うおばあちゃんにとっては、子どもと過ごす時間はかけがえのないもの。子どもの存在そのものに価値があるんです。親にとっても我が子を可愛がってもらうことは喜び。世代だけでなく、地域や分野をまたいで関わり合うことで、それぞれの違いを認め、補い合えると思っています」。立場が違うからこそ生まれる役割があるのかもしれません。頼り、頼られ、支え合うことがまちに広がっていくといいですね。

●上：子育ての駅ぐんぐんでは、講座やサロンなどを開催。個々の気持ちを大切に、親子や居合わせた親同士のつながりを深める場です。●左下：NPO法人になニーナではおばあちゃんから暮らしの知恵を学ぶワークショップも企画。●右下：料理好きを活かして取り組む個人活動「おうちごはん日和（ひより）」で料理教室を主宰。最近では同じく料理教室を開く本山さんと、こどもおにぎり塾を共同開催。

profile

- 1969年　長岡市に生まれる。小学校からの夢を叶え保育士になる。
- 1990年　憧れの保育園に就職。市民活動に関わり始める。
- 2002年　結婚し、活動も小休止。長男の出産をきっかけに保育士を退職。
- 2007年　NPO法人多世代交流館になニーナ立ち上げに参画。多世代と地域をつなぐ企画に取り組む。
- 2015年　になニーナが運営委託を受託。子育ての駅ぐんぐんの施設長となり現在に至る。

活動の根っこ

みんな
つながってるよ
ババユウコ

団体PickUp!

「つながるラジオ」で取材した団体をご紹介

生の声は「ラジオ」「コライト」で！

山古志仕事唄伝承の会

地域の文化を唄い継いでいく

新築の上棟式など祝いの場で唄われてきた仕事唄。山古志地域で工務店を営む代表の星野哲男さんも父親から引きつぎ、現在は祭りやイベントで披露しています。曲は、十日町市から竹沢地区に伝わった「天神ばやし」と、住宅建設時の地盤固めを唄った「石場かち」。歌手の宇崎竜童さんから伝承を勧められ、有志6人で活動開始。平成25年アオーレ1周年イベントで披露しました。これからも力み過ぎず、唄い継いでいきます。

特定非営利活動法人 新潟マック

経験で支える社会復帰への道

アルコールや薬物、ギャンブル、その他、依存症で苦しむ人たちの社会復帰を支援する新潟マック。地域活動支援センター事業や共同生活援助事業などを実施し、県外から訪ねる人も少なくありません。講演や人材育成にも取り組み、理解とサポートの裾野を広げています。「スタッフも依存症経験者です。【今日1日】やってみようと声を掛け合っています」と代表の北原勝利さんは話します。

長岡市茶道文化協会

流派を超えて茶道を盛り上げる

茶道の文化を継承し、世代を問わず、もっと気軽に親しむことができるようにと、流派を超えた茶道の活性化を目指して今年4月に設立しました。茶道は日本の文化の総合芸術であり日本のおもてなし文化がつまったものです。この文化をもっと沢山の人に触れて感じてもらえるように、各地域で行うキャラバン茶会や子ども向けイベントを企画したり、茶会のできるスペースの紹介などを行っていきます。

ギークハウス越路

「IT×地方」でゆるく豊かなコミュニティづくり

ギークハウス越路は、今年の5月に越路地域の山あいに設立されたインターネット好き（ギーク）な人が集まるシェアハウス。ネット関係の勉強会や食事会など、人が集まるイベントを定期的に行っているほか、自然豊かな地域性を活かして畑で野菜の栽培も。インターネットを駆使すれば生活に困ることもほとんどありません。IT×地方でゆるく持続的な暮らし・コミュニティをつくっていきます。〈HP〉http://geek-koshiji.com/

長岡企業のソーシャルアクション！

地域活動を支える企業をご紹介

株式会社田中組

住民と一体となった宝の磨き上げ

今年で創業60周年となる株式会社田中組は、長岡市水道町の建設会社。「地域密着企業として地元貢献したかった」と、地域の宝である水道タンク（水道公園）がさらに親しみやすくなるよう、縁の下で支えています。市民有志によって水道公園で行われる「Sunset Townk」に協賛やボランティア、資材の格安リースなどを通してサポートしてきました。これからも街のシンボルを地域住民と足を揃えて守り続けます。